

# 一人金婚の方々を表彰

最愛の伴りよを亡くし、一人で結婚50年を迎えられた方々を祝うため、10月6日、町公民館講堂で一人金婚式が行われ、10人が表彰されました。住永町長から出席者を代表して、古閑豊子さん（五楽）に感謝状と記念品の贈呈があり、「今日を機会にさらに明るく元気に頑張っていたください」と祝辞がありました。



一人金婚の表彰を受けた皆さん

これを受け、藤田かし子さん（辻の城団地）が「表彰を励みとして、私たち一同、地域社会発展のため微力ながら力を尽くすことを誓います」と謝辞を述べました。

式終了後、童謡歌手の沖吉けい子さん（広崎）から「埴生の宿」「涙そうそう」など5曲の歌のプレゼントと町婦人会からは手づくりのエコバッグのプレゼントがあり、参加者は、「感動しました」「力がつきました」と感激していました。

▼婦人会から手づくりバッグをプレゼント



▲温かみのある歌声で祝福する沖吉さん

宮城県東松島市と熊本県知事からお礼の手紙

## 復興支援の経験を町の財産に

9月21日、県上益城地域振興局（船原幸信局長）から本町へ、東日本大震災に係る職員派遣に対する宮城県東松島市長と熊本県知事からのお礼の書簡が届けられました。

「チーム熊本」による職員派遣は9月20日現在、県・市町村合わせて433人へのぼり、現在も継続中です。本町からも2人の職員を派遣しています。

現地に赴いた職員は、東松島市役所で罹災証明や生活再建支援金といった申請受付業務等に従事しており、被災地のために高い志を持って懸命に活動しています。

チーム熊本の活動が東松島市の被災された方々にとって大きな励みになっています。

「被災地の復興は長期的なものとなるため、今後も派遣を継続していかなければならない」と船原局長。住永町長も「被災地の支援が最優先だが、プラスアルファで職員の財産にもなっている。貴重

な経験を今後の町の防災計画に役立てたい」と述べました。

現地は、徐々に落ち着きを取り戻しつつありますが、復興はまだ始まったばかりであり、困難な状況が続いています。

チーム熊本は、これからも東松島市の復興を支援するため、職員派遣を継続することとしており、本町も引き続き支援していく予定です。



町長へ書簡を手渡す船原局長(左)

